



# 石堤っ子

高岡市立石堤小学校

学校だより

NO. 7

平成28年12月20日

## 2学期の終わりにあたって

あとわずかです。2学期が終了します。保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に温かいご支援・ご協力をいただき深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2学期は「学習発表会」「持久走大会」「さつまいも掘り」「感謝の集い」「もみじランチ」等の全校的な行事と、6年生は「連合運動会」、4～6年生は「連合音楽会」、4・5年生は「稲刈り」という行事がありました。子供たちは一つ一つの行事に目標を設定し、その達成に向かって努力を続けてきました。それぞれの行事への取組で、一人一人の子供が大きく成長する姿を見ることができました。

もちろん毎日の学習にも真剣に取り組んできました。教員は子供たちに付けたい力・付けるべき力を考えながら日々の授業の充実に努力しています。子供たちはそれに応えて課題に向かって自分でじっくりと考えたり、友達と意見を交換したりしながら学習に励み、力を付けてきました。やり抜いた達成感や成就感をもとに、2学期の成長を次につなげていってほしいと思います。

### 酉年について…

来年は酉年。十二支の十番目です。本来十二支は古代中国で方角や時刻、月を表すものとして用いられ、この十二支に十干を合わせて暦年を表すことにも使われたそうです。

# 酉

酉の本来の読みは「ゆう」。口の細い酒つぼを描いたもので、「酒」に関する字に用いられ、収穫した作物から酒を抽出する意味や収穫できる状態であることから「実る」も表しているようです。つまり、「果実が極限まで熟した状態」のことを表しているようです。何で「酉」が「鶏」というと…、もともと十二支の子、丑、寅、卯…亥には動物の意味はなかったようです。漢字や読み方が似ているという理由で結び付いたらしく、庶民が十二支を覚えやすくするために身近な動物が当てられたということです。

鶏は時を告げる動物で、人々から貴重な生き物として重宝がられていました。鶏は規則正しく、毎朝夜明け前に鳴き、人々に朝が来るのを告げます。「早起きは3文の得」、鶏はそれに役立っていたから選ばれたとも言われているようです。

ということは…、元日に、神様のところに着いた順で十二支の順が決まったという話は、後の時代につくられた話ということですね。

「収穫に縁起のよい年みたいだから、こつこつ努力を続けて開花させる年にしよう」「鶏が猿と犬の間に入ったのはけんかを仲裁する役割だから、人に優しくしよう」「今年は早起きを頑張ろう」などと年末年始の時期に家族で、酉年や干支について話し合ってみることで、1年の目標を立てていくのもよいのではないのでしょうか。



## 五つ教え、三つ褒め、……

「褒めて育てる」ということがよく言われます。子供の自己肯定感や自己有用感を育てるために学校だよりでも「子供たちの具体的場面をとらえて、よいところを褒めてほしい」という趣旨のことを書いてきました。しかし、「普段生活をしていると悪いところ、直してほしいところばかりが目につき、ついつい叱ってしまう」という声を聞きます。



叱ることも大切なことだなあ…と考えているときに思い出したのが、「可愛くば、五つ教えて、三つ褒め、二つ叱って、よき人とせよ」という二宮尊徳の教えとされる言葉です。最初に、「こうしたらいいんだよ」ということを教えておいて、次にできたことや頑張っていることを褒める。そして、それに対して怠けたり、いい加減にしていたら叱る。ということでしょうか。叱られることがないまま大きくなった子供は、叱られることを理解できなくなります。自分の人格を否定されたと思ってしまうようです。叱られることで子供は、自分のしてきたことを振り返ります。自分がこれからどうすればよいのかということに気付き、これからを考えるようになります。だから、叱るということは、子供が成長していく上でとても大切なことです。しかし、がみがみと感情にまかせて怒ったり、くどくどとした叱り方は効果がありません。簡潔な言葉で伝えることが大切です。最後に「どう思うか」ではなく、「どうするか」と訊くことも大切です。思うだけでなく行動が入るからです。

ただ、やっぱり叱るより褒める方がいいですよ。褒めてあげると、子供は喜びますし、喜ぶ顔を見ていると、親も幸せな気持ちになります。21日（水）に学習状況や学校での様子をお知らせする個別懇談会があります。その折には、お子様のこれまでの学習・生活面を振り返り、頑張ったことはご家庭でも、認め、励ましていただけたらと思います。教師や親から勇気付けられたり、褒められたりされるという体験を多くもって育った子供は、自分のやっていることに自信をもち、何事にも積極的に取り組もうとする力を付けていきます。教師や親は、僕（私）のいいところをわかってくれている、弱いところも知ってくれているという安心感が生まれると、情緒が安定した穏やかな子供に成長していきます。子供の成長には、何より成功体験が欠かせません。一でも多く、小さなことでも成功体験を積み重ねていけば、それが子供の「自信」につながり大きく成長します。例えば、苦手だった計算ができるようになったり、一生懸命練習して漢字を誤りなく書けるようになったりするといったことです。結果だけ褒めるのではなく、努力の過程も褒めるようにすることも大切です。



冬休みの間、是非ご家庭でお手伝いを実行させてください。家族の一員としてお手伝いすることの大切さや仕事のやり方を教え、子供たちの様子をよく見て、できたことを褒めてください。一人でできない場合は、一緒にやってみるのもよいと思います。もうお手伝いを実行している子供には、仕事のハードルを少し高くしてみてください。家族とともに家の仕事をする中で、「家族の一員」という自覚をもってほしいと思います。親子の絆を深める貴重な機会になることを願っています。

### 「子供を叱るときにはしてはいけない6つの約束」 明治大学文学部教授 諸富 祥彦

- [1] 大声を張り上げない
- [2] 感情的にならない
- [3] 理由を言わずに叱らない
- [4] 大勢の前で叱らない
- [5] 時間が経ってから叱らない
- [6] 体罰の繰り返しはしない